

# 日本ソフトウェア科学会論文執筆要項

(平成 18 年 4 月 1 日改訂)

(平成 22 年 4 月 1 日改訂)

(平成 23 年 9 月 27 日改訂)

(平成 28 年 8 月 28 日改訂)

(令和元年 11 月 26 日改訂)

## [1] 原稿の体裁

投稿論文の原稿は日本語または英語で横書きとすること。原則として L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X を使用し、引用文献のページの作成には B<sub>I</sub>B<sub>T</sub>E<sub>X</sub> を用いること。

原稿は白黒を原則とする。多色刷りが必須な場合は編集委員会に問い合わせること。

## [2] 原稿の構成

原稿は次の部分からなるものとする。

1. 標題 (和文の場合は英文を併記)
2. 著者名および著者の所属 (和文の場合は英文を併記)
3. 概要 (和文の場合は英文を併記)
4. 本文
5. 文献表
6. 図および表 (可能な限り、本文中の参照箇所の近くにおく)

標題は論文の内容をよく表す簡潔なものとする。概要は、本文が日本語の場合は日本語で 400 文字程度および英語で 150 語程度、本文が英語の場合は英語で 150 語程度に要約したものであり、論点がよくわかるように述べたものとする。

レター論文の場合は、投稿時には刷り上がりページ数で 6 ページ以下を厳守すること。なお、6 ページ以下であっても、著者が希望すれば通常論文として投稿できる。

## [3] 国名, 地名, 人名

1. 和文の場合、国名は、イギリス、アメリカ、ロシアなどとし、英、米、露などは原則として用いない。
2. 国名以外の地名、人名は原則として原綴で表記する。
3. 初出の人名で文献引用を伴わないものは、原則として姓名とも書く。

## [4] 文献表

1. 文献表は原則として著者の姓のアルファベット順とし、それに番号をふる。

### 例

- [1] Codd, E. F. : A Relational Model ...
- [2] 土居範久 : ...
- [3] Liskov, B. H. and Zilles, S. N. : ...

本文の中で文献を引用するときは、その個所に文献番号を示す。

### 例

...であることが証明されている [2].

2. 原則として、文献表の文献はすべて本文中で引用する。
3. 学術雑誌の名称は標準的な記法にしたがって略記する。

### 例

*IEEE Trans. Softw. Eng.*  
*Commun. ACM*  
*Theor. Comput. Sci.*

4. 文献の記述形式は以下のようにする。
  - a. 連名の著者によるものには原則として全員の名前を示す。欧文の場合には最後の著者の前に and を置く。
  - b. 学術雑誌論文の場合には、著者、標題、掲載誌名（欧文のときはイタリック体）、巻、号、年、ページの順に示す。

### 例

- [1] Liskov, B. H. and Zilles, S. N. : Specification Technique for Data Abstraction, *IEEE Trans. Softw. Eng.*, Vol. SE-1, No. 1 (1975), pp. 7–19.
- [2] Nakajima, R., Honda, M., and Nakahara, H. : Hierarchical Program Specification and Verification—a Many-sorted Logical Approach, *Acta Inf.*, Vol. 14 (1980), pp. 135–155.
- c. 論文集論文の場合には、著者、標題、論文集名（欧文のときはイタリック体）、編者、(巻)、出版社、年、ページの順に示す。

### 例

- [1] Brock, J. D. and Ackerman, W. B. : Scenarios: A Model of Non-determinate Computation, in *Formalization of Programming Concepts*, Diaz, J. and Ramos, I. (eds.), Lecture Notes in Computer Science 107, Springer-Verlag, 1981, pp. 252–259.

[2] Necula, G. C. : Proof-Carrying Code, in *Conference Record of the 24th ACM SIGPLAN-SIGACT Symposium on Principles of Programming Languages (POPL'97)*, ACM Press, 1997, pp. 106–119.

- d. 著書・編書の場合には、著者・編者、書名（欧文のときはイタリック体）、（巻）、出版社、年の順に示す。

#### 例

[1] Stoy, J. E. : *Denotational Semantics: The Scott-Strachey Approach to Programming Language Theory*, MIT Press, 1977.

[2] Yeh, R. (ed.) : *Current Trends in Programming Methodology*, Vols. 1–4, Prentice-Hall, 1977.

[3] 米田信夫（編）：プログラム言語，岩波講座情報科学 9，岩波書店，1983.

## [5] 図および表

図および表はそのまま掲載するので、できるだけ鮮明なものを用意する。

## [6] 脚注

脚注の多用や長文の脚注は避ける。本文と脚注の照合にはダガー (†1, †2, ...) を用いる。

## [7] その他

1. 他人の著作物を利用する場合は、著作権法上の「引用」\*1 の範囲での利用となるよう留意する。
2. 法上の「引用」の範囲外での利用が避けられない場合、もしくは法上の「引用」の範囲での利用か否かが不明であるような場合は、利用する原典の著作権者等に必ず承諾\*2 を得た上で、その出典を明記する。
3. ロゴ等の商標もしくは登録商標を、その権利を侵害して使用しないよう留意する。

---

\*1 法上の「引用」であるためにどのような点に留意すべきかは、文化庁の Web ページ（著作物が自由に使える場合：[http://www.bunka.go.jp/chosakuken/gaiyou/chosakubutsu\\_jiyu.html](http://www.bunka.go.jp/chosakuken/gaiyou/chosakubutsu_jiyu.html)）の「注(5)」などが参考になる。

\*2 投稿した論文が、どのように複製等されうるのかを確認した上で承諾を得ること。